

あの日、誰とどんな話を

3.11から4年
鎮魂の祈り

電話の後、涙が止まらなかった。それだけずっと緊張して暮らしてきたんだと思った。やっと帰って来てくれたと思うと、ほっとした。

昨年7月、いわき市久之浜町の高木京子さん(63)に警察署から連絡が入った。津波で行方不明になったままだった夫の芳夫さん(当時63)の遺骨の一部が見つかったとのことだった。市議だった芳夫さんの遺骨は、久之浜地区の津波のがれきを集めた久之浜市民運動場で、がれきを処分するために作業員が分別作業をしている最中に発見された。



還暦記念で写真に納まる芳夫さん。写真には津波で流された形跡が残る

いわき・夫を亡くした高木さん

あの日、芳夫さんは平での会合に出ていて、津波被害に遭うとは思いもしなかった。

海岸近くの自宅は津波で流され、高木さんは近くの久之浜中に避難した。2、3日して地域の人から芳夫さんを久之浜で見つけたという話を聞くようになった。

「堤防に上って津波を確認していた」「自転車で避難を呼び掛けていた」とか、いろいろな話があるが、最期を知らない。あの日、誰と会って、どんな話をしたのか知りたい。

流された自宅は防災緑地になるため、2013(平成25)年11月に久之浜町の別の場所に新しい家を建てた。1部屋多く造り、地域で盛んな「吊し雛」の教室用に使っている。民生児童委員でもある高木さんも生徒の一人だ。



気兼ねなく集まって話せる場所がほしいという話を聞いていた。津波被害に遭って避難した人も、ここに残った人もそれぞれ悲しい思いを抱いているのが分かる。

1年前の3月11日は県の追悼式で遺族代表の言葉を述べた。

震災の初めの年は人目が気になり、誰にも会いたくなかった。体験を話せるようにもなったが、まだ、つらい思いをしている人はいる。3月11日は遺族が心静かに祈りをささげられる日であってほしい。



吊し雛教室で作った作品の前に立つ高木さん。「被害に遭った人もそうでない人も悲しみを抱いている」と話す=いわき市久之浜町